

1

抽象的
た
え
ば
脳

3
B
↓
D
↓
C
↓
A
4
○
5
(記述題)

6
幸
せ
に
な
る
7
子
を
残

8
自
制
9
客
観
いた

10
a
子
b
石
c
温

2

1
a
野
心
b
正
直
c
歴
然

d
不
当
e
発
作
f
根
底

2
A
イ
B
エ
c
ア
3
い
か
き
か
(3 完答)

4
吊
革
苦
痛
5
(記述題)
6
車
掌
の
指
示

7
吊
革
い
る
8
席
を
ゆ
ず
ら
な
い

9
あ
れ
ほ
ど
、
10
ウ
11
ウ

1

5
根
拠
が
な
い
し
、
現
代
の
科
学
的
な
知
識
と
の
整
合
性
も
と
れ
な
い
か
ら
。
(同意可)

2

5
一
定
の
標
準
に
適
合
し
た
人
た
ち
に
は
席
を
ゆ
ず
る
(同意可)
ということ。

配 点	
1102	1・2 各2点×12＝24点
1525	各6点× 2＝12点
その他	各4点×16＝64点
100点	

1

1 ◎の文の [] の前後をよく読むこと。 [] のあとの「すぐには答えを出せない」が「すぐに答えを出すことは難しい」、[] の前の「あまりに」が「過ぎて」と言いかえられている一文がある。その文の「なぜ生きているのか？」は「何のために生きているのでしょうか？」の言いかえであることに気づけば、答えとしてまちがいないことがわかるだろう。

2 —線部と同じような内容が書かれている部分をさがすと「そのため最初は…」の一文が見つかる。「そのため」の前に理由が書かれていると考えられるし、「ニューロン」という言葉があることから「科学的な理由」にあてはまる。

3 Bの「そうして」のさしている内容が第二段落に書かれているので、Bから始まりそうである。そうすると「あの世まで」という言葉のつながりで二番目のDともうまく結び付く。CはDの言いかえであり、D・Cを受けてAの「それなのに」がつづく。

4 すべて、「を考える」という言葉がつづいていることから、三つとも「なんで生きているのだろうか？」をさしていることになる。

5 問いの「そうならない」は、本文では「そのまま信じるのはなかなか難しい」と書かれており、そのあとに「まず」として理由の一つ目あげられている。さらに、そのあとで「また」として二つ目の理由が書かれている。

6 [] ④のあとに「ため」とあり、「」が付いていることに注目すると、これより前に「幸せになるため」という言葉が「私たち人間が生きているのは…」という文の中に書かれていることに気づけるだろう。

7 この段落は、「私たちが生まれた理由」が「親が子を残すことを望んだから」であることの説明になっている。次の段落も「子を残す」ということの説明のつづきである。

8 直後に「たとえば」として「大量発生」ということがあげられており、「効きません」という言葉がつづいていることから「欲求をおさえられない」という意味にすればよいと考えられる。

9 「本書ではそれを目指してみたい」という言葉が出てきた時点で、この本が書かれた目的に気づいていなければならない。「答え」という言葉が「科学的な答え」「客観的な事実に基づいた答え」という形で書かれていた。

10 aは、出生数が減少して子供の数が低下すること。bは、燃料として用いられる動植物の化石のことで、石炭、石油、天然ガスなどがあてはまる。cは、平均気温が長期的に上昇すること。いずれも常識として覚えておいてほしい言葉である。

2

1 aは、ひそかに抱く大きな望み。bは、正しくまっすぐなこと。cは、はつきりしているさま。dは、道理に合わないこと。eは、自分ではおさえられずに、突然ある行動に出るさま。fは物事や考え方のおおもとになるところ。

2 Aは、「相」が「おたがい」、「殺」が「消す」という意味になる。Bは、「物」が「さがす」、「色」が「ものの様子」という意味である。Cは、化けている狐や狸の尻尾をつかんで正体をあばく、というところから生まれた言葉である。

3 直後に「座席について」とあり、その次の文でくわしく言いかえている。この「厄介な問題」をふまえて、「次の話」が書かれており、それは「席をゆずるかゆずらぬかということについて起こった出来事」であった。

4 次の文で説明されている。「かなり疲労を感じている」は勤め帰りの疲労のことであり、席をゆずって吊革を持つていることへの後悔の直接的原因にはならないし、字数も合わない。

5 少し前に「自分一人の内規」とあり、これも同じ内容になる。この言葉の前の「そうした」に注目すると、さらにその前に書かれているはずである。「機械的に席をゆずって」とあることも手がかりになる。

6 「車掌の依頼に応じない乗客たち」に対して、自分は電車の中央部に突進して入口が混まないようにしているのである。ただし、「これよりあとの文中」という条件があり、「車掌の依頼」を言いかえた言葉をさがさなければならない。

7 同じ一文の後半に書かれていることをまとめた表現をさがすことになる。「立っている」という内容になる、と見当をつけて、そのあとを読んでいけば、すぐに見つかるだろう。

8 老婆が立っているのに乗客たちはすわったままでいるのである。ただし、「乗客たちが彼女に」につながるようにするのだから、「すわっている」ではなく、「席をゆずらない」という書き方になるはずである。

9 乗客たちを批判していたのに、自分も同じようなことをしてしまった、ということになる。直後の三つの文で説明されているが、「自分がそこへすわろうとした」ということまではつきりと書かれている三つ目の文が最も適当である。

10 ウ以外は自分の利己心に気づいてショックを受けていることが感じられる。ウは反対に利己的な心情と言える。

11 ⑨を先に決めるとよい。この場合の「尻尾」とは、自分の心の中にあつた「利己的なもの」をさしている。⑧は利己心とは反対に、他者を思いやって、りっぱそうにふるまう様子である。なお、『我鬼』という題名については、最後の部分で、「友人（芥川龍之介）がつけている俳号（俳句をつくる時の名前）で、中国人が『利己心』の意味で使うことばだ」という内容のことが書かれている。